

## 胸部(上・中部)食道癌根治手術患者の術後経過に於ける血液像の變化に就いて

中山外科教室(主任教授 中山恒明)

小 澁 智 哉

食道切除成功例の術前術後に於ける血液像の變化については、すでに昭和23年教室の深町氏が、主に下部食道切除及び空腸移植による胃全剝出患者に就て報告し、又大澤氏及び故瀨尾教授の食道外科に關する宿題報告もあるが、現在我が中山外科教室で行つている胸壁前食道胃吻合による胸部中上部食道癌根治術は全く獨創的なものであり、したがつて、かかる手術の術後経過に於ける血液像の變化については、未だその詳細な報告を見ないのである。今日私はこの根治手術後に於ける血液像の變化について、即ち、さきに私がこの手術の血液像よりする手術適應について報告したが、それと同じ患者總數、50例中、根治術施行例21例について詳細に觀察し些か知見を得たのでここに御報告する次第である。

第一表 術後経過、赤血球數變動

経過	二週	四週	—
経過良好	5 (83%)	6 (50%)	0
遠隔死	1 (17%)	5 (42%)	0
入院中死亡	0	1 (8%)	2 (100%)

第一に赤血球數の變化であるが、第1表に示す如く、遠隔成績の調査によつて現在尙健康にして経過良好なるものと、遠隔死及び入院中死亡のつに分つと経過良好なる者11例中5例は大體次の様な経過を示した。即ち、術後1~2日は著明に増加するがそれより次第に減少し、4日~2週で術前値近く迄なり、之より減少しないもの、及び、術後あまり増加も減少もせずしかも術前値よりは高いもの、又は、術後一時減少するが、2週位で術前値以上となり、そして安定するものの、諸経過を示した。そしてかかる経過をとつた群に屬するものは6例で経過良好者が大多數を占めて居る。又入院中にも他の合併症を殆んど起していない。

次に入院中の死亡例は3例でその中2例は術前値に比し、術後次第に増加し1~2週で増加著明となり、その状態で死亡し、他の1例は初めから次第に減少し、遂に

回復を見なかつた。

又入院中肺合併症、食道胃吻合部化膿、背部手術創化膿、又は膿胸等種々の合併症を起した例は、初めから減少を示した群に屬するものが多く、又遠隔成績の検査によつて、退院後3ヵ月より8ヵ月後の間に死亡したものが12例中5例あり、體力低下を物語つている。

次に白血球數の變化であるが、第2表の如く、先ず経過良好なる11例中7例は、術後一時増加を示すが、4日~2週で術前値迄戻りそれ以下には下らないもの、或いは術後、術前値以上を保ちしかも白血球増多症は起さない経過を示した。

第二表 術後経過、白血球數變動

経過	二週	四週	—
経過良好	7 (78%)	4 (40%)	0
遠隔死	2 (22%)	4 (40%)	0
入院中死亡	0	2 (20%)	1 (100%)

又、術後一時増加を示し夫より次第に減少を始め、2週~3週の間、術前値以下に下るといふ経過を示した1群に屬する10例中には入院中死亡2例と遠隔死亡4例が見られ、又治癒したものでも、その経過中種々の合併症を起しているものが最も多數見られた。

次に、術前又は、術後経過中に於て、白血球數が5000以下に減少した症例を拾つて見ると7例中退院間もない1例と術後數週間で正常値内に恢復した1例を除いた5例中、3例は入院中に2例は退院後5ヵ月と3ヵ月目に死亡した。

次にヘモグラムに於ては、一般に云われる如く、術後に核左方偏移及び淋巴球百分率減少の像を示してくるが経過良好なる11例中8例迄が1~2週で正常値に歸り又逆に入院中死亡3例及び遠隔死6例、計9例中7例に於て比較的中性嗜好白血球増多症が仲々恢復を見なかつた。

又、核左方偏移にともない、術後骨髓細胞が出現した例を見ると、總數7例中、入院中死亡3例遠隔死2例計5例に於て見られ、他は微毒等の合併症があり豫後は餘り良くない様である。

最後に術後経過良好な1例を第3表に示して、御参考に供する事にする。

以上私は胸部上中部食道癌患者根治手術後の血液像を系統的に詳細に観察し、

次の如き結果を得た。

即ち、赤血球數の變動では、

i) 豫後可良なる者は、術後一時増加し、4日~2週で術前値近く迄下るか、或は術後あまり増加も減少もせず、又は一時減少しても2週位で術前値以上に恢復し、いつれに於ても、その後術前値よりは減少しない。

ii) 術後減少するばかりで恢復の兆が見えないもの、又は術後漸次増加のみを示すものは合併症を起す危険がある。

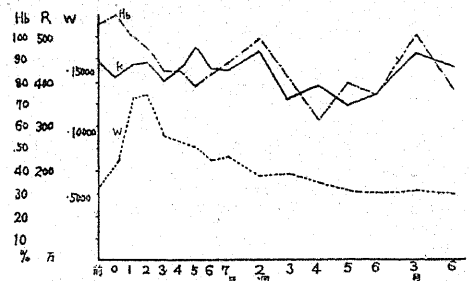
次に、白血球では、

iii) 豫後可良の者は、多く術後一時増加を來たし、4日~2週で減少し、大體術前値以上を保つて経過している。

iv) 術後一時増加しても2~8週で次第に減少し、術前値以下に下るか、又は始めから術前値より減少をたどる一方の者には種々の合併症を起す傾向があり、特に術前術後を通じ白血球數が5000以下に減少する症例7例中3例が入院中死亡し、2例が遠隔死であつた。

v) ヘモグラムに於ては経過良好なるものは比較的中

第3表 岩○654歳 食道癌



性嗜好生白血球增多が1~2週で回復し、又術後、骨髓細胞が出た例は7例で、入院中死亡、3例、遠隔死2例の多數をしめた。

文 献

- (1) 瀬尾貞信：日本外科學會雜誌，第33回第11號 食道外科宿題報告
- (2) 原 勝巳：日本内科學會雜誌，第15卷 第3號 植物性神經と血球殊に白血肉との關係に就いての研究
- (3) 東 恭則：治療及び處方，第20卷上，開腹術後の白血球核移動，白血球像の變化及其の利用
- (4) 沖中重雄，中尾喜久，三好和夫：第11回日本血液學會春季總會，昭24年，第12卷，生體防禦機轉の血液學的研究
- (5) 小山信一：臨床外科第3卷，第8號，食道切除成功例の術前術後並に遠隔成績の血液像の變化について